



真岡市議会議員

お世話になります！

# 中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4  
Tel. 0285-82-6285 e-mail tonpei@i-berry.ne.jp  
ホームページ <https://www.nakamurakazuhiko.com>



vol.84



リニューアル  
しました！

中村かずひこ  
ホームページ



ぜひ、  
ご覧ください。

議会での質問の様子が、  
インターネットの  
録画配信でいつでも  
ご覧いただけます。



「見逃した！」という方に  
バックナンバーをお送りします  
これまで「未来をつくる会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜8号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日  
8月4日(日)  
発行予定です。  
新聞の折り込みチラシをご覧ください。

一般質問が実現します！



## その1 市内5つの小中学校が『コミュニティ・スクール』に

『コミュニティ・スクール』は、教育委員会から任命された保護者や地域住民などが、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりできる制度を持った学校のことです。学校の課題を地域全体でカバーすることで、教員の多忙感解消や生徒への指導力向上などの効果が期待されます。

現在、真岡市内では唯一、真岡東中学校で導入されていますが、令和6年度は5つの小中学校が『コミュニティ・スクール』として新たな一歩を踏み出します。なお、令和8年度までには市内の全校で導入される予定です。



## その2 イノシシ捕獲の報償金が増額

真岡市では、有害鳥獣対策としてイノシシを捕獲した際の報償金が、令和3年度まで1頭あたり1万1,000円でしたが、4年度以降は1万3,000円に。そして、6年度からは1万6,000円になりました。3年前と比較すると5,000円の増額となり、担い手確保などの効果も期待されるそうです。

※実現に向けてご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

# 2月定例議会報告 2/16▶3/14

2月定例議会が、2月16日(金)から3月14日(木)の28日間にわたって行われました。

今回執行部から出された議案は『令和6年度当初予算』や『空き家等の適正管理及び利用促進に関する条例の一部改正』、『市営墓地条例の一部改正』など38件で、いずれも原案通り可決となりました。

## 代表質問

中村が行った代表質問の内容

### 1.『若者会議』の総括と今後の展望について

- (1)これまでの活動の総括と今後の計画について
- (2)『まちづくりプロジェクト』との連携について
- (3)より幅広い世代が集う場について

### 2.真岡鉄道への支援策について

- (1)今後更新が必要な設備について
- (2)DMV(デュアル・モード・ビークル)の規制緩和に向けた取り組みについて
- (3)関東鉄道常総線やつくばエクスプレスとの連携強化について

### 3.福祉分野の諸課題について

- (1)『逆介護保険制度』について
- (2)ヤングケアラーや介護離職者などへの支援策について

### 4.教育分野の諸課題について

- (1)コミュニティ・スクールの導入計画について
- (2)小中学生の不登校に対する取り組みについて
- (3)部活動の地域移行と地域人材の活用について
- (4)子どもたちへの郷土教育について
- (5)広島平和記念式典への中学生の派遣について

議員による質疑、一般質問は、2月26日(月)、27日(火)の2日間行われ、中村は26日の3人目として登壇。会派『もわか新時代』を代表して、4件の課題について質問しました。



執行部は答弁の中で、

- ◆令和6年度に市内5つの小中学校でコミュニティ・スクールを導入し、8年度までに市内全ての小中学校で導入を進めていくこと
- ◆真岡鉄道が、関東鉄道やつくばエクスプレスと連携した『1日フリー切符』や『周遊切符』の実施について協議を進めていること

などを明らかにしました。

(中面に関連記事)

## 予算審査特別委員会

また、3月12日(火)に行われた『予算審査特別委員会』において、中村は以下の項目について質疑を行いました。

- |                            |                                     |
|----------------------------|-------------------------------------|
| 1. 障がい福祉サービス(訓練等給付)費について   | 6. オフィス進出等促進補助金について                 |
| 2. 子どもの居場所づくり事業補助金について     | 7. 中心市街地リノベーション都市再生整備計画検討業務等委託費について |
| 3. 医療的ケア児保育支援事業補助金について     | 8. コミュニティ・スクール推進事業費について             |
| 4. 生活保護扶助費について             | 9. 小中学校ICT支援員業務委託費について              |
| 5. 真岡グリーンツーリズム推進協議会補助金について | 10. 新図書館システム導入業務委託費について             |



質問:中村かずひる

# 中村かずひるの議会レポート

## 2月定例議会 代表質問



質問のやりとりが、インターネットの動画でご覧いただけるようになりました。

### 【答弁者】

- 石坂 真一 市長
- 山中 孝雄 教育長
- 水沼 保彦 総合政策部長
- 仁平 明 健康福祉部長
- 古澤 博之 教育次長

### 1.『若者会議』の総括と今後の展望について



**質問** 『若者会議』は、令和3年10月からの半年間を準備期間として位置づけ、翌4年度から本格的に活動が始まった。現在策定中の新しい総合計画には『若者会議』のメンバーの意見も盛り込む予定と聞いている。これまでの**2年半の活動**を振り返り、**どのように総括**をしているのか。また、**新年度以降の活動計画**は。

**答弁** 『若者会議』は、若者のまちづくりに参画する機会の創出と、未来を担う人材の育成を目的に、現在**20名で活動**している。これまでに、真岡木綿などの**地域資源の活用**に取り組んだほか、令和5年度は**総合計画**の改定に合わせて**提言書**を取りまとめた。今後については、高校生達などの意見を聞く『若者ミーティング』の開催などを**計画**している。

**質問** 真岡市には、若い世代がまちづくりに関わる組織として『若者会議』のほかに『まちづくりプロジェクト』がある。いずれも、若い世代の人達がまちづくりに携わるものだが、2つの組織の**連携、相互交流が見られない**点は課題である。今後どのように改善を図っていくのか。

**答弁** 『若者会議』と『まちづくりプロジェクト』は、どちらも若者が主人公の集まりである。しかし、『若者会議』が**仕事を持った若者達**を中心に、業種を超えた交流を通じて、**まちづくりの取り組みを考**えるのに対して、『まちづくりプロジェクト』は**高校生・大学生**が中心となって、公共空間を活用した**社会実験**をすることが目的である。そのため、それぞれが**別の活動になるもの**と考えている。

**質問** 現在、真岡市では『若者会議』や『まちづくりプロジェクト』など、若い世代の人達が**地域の魅力や課題を発掘**しながら、まちづくりを進める事業が展開されている。しかし、そうした取り組みは、本来**全ての世代に求められている**ことである。以前、**益子町**には『ましこ町民大学』という幅広い世代を対象に、まちづくりを担う人材育成を目指した事業があったが、**真岡市でも同様の取り組み**を検討してはどうか。

**答弁** 真岡市では、幅広い世代が集う場として『**市民活動推進センター**』があり、現在高校生が地域の人達とボランティア活動を行う『**推し街ボランティア**』などの取り組みを行っている。また、令和7年春に開館予定の『**複合交流拠点施設**』では、**1階を地域交流ゾーン**と位置づけ、**子どもから高齢者までが交流**できる事業を計画している。

### 2.真岡鐵道への支援策について



**質問** 真岡鐵道の利用者数は、平成6年度の約171万人をピークに、**令和4年度は約88万人**と概ね半減している。利用者の約7割を占める高校生達が年々減少しているのに加えて、コロナ禍の影響も暗い影を落としている。そうした中であっても、**設備の更新**は必要であるが、今後の**スケジュールと金額の見込み**はどのようになっているのか。

**答弁** 真岡鐵道の**修繕や更新**は、**令和4年度からの10年間**で計画的に進めていく予定であり、その費用は**約14億円**と試算されている。今後のスケジュールと各市町の負担額については、3年ごとに策定している『真岡鐵道経営計画』の中で決定しているが、**真岡市の負担額**は令和4年度からの**3年間で約4,800万円**と見込まれている。

**質問** DMV(デュアル・モード・ビークル)は、鐵道が走る**線路**と自動車が行く**道路**の**双方を走行可能**な車両で、令和3年から徳島県の『阿佐海岸鐵道』が、世界で初めて本格走行させている。**輸送コストも既存車両の1/4程度**に抑えられると言われているが、専用のホームや線路を必要とするなど**厳しい規制**がある。周辺の自治体や、全国の第3セクターの鐵道会社と連携して、**規制緩和**に向けた**要望活動**を行っているかどうか。

**答弁** 現在、徳島県の『阿佐海岸鐵道』が、全国で唯一DMVを運行しているが、安全な運行を確保するため、**専用の線路やホームを整備**するなど、10kmの運行区間の整備費用は、**約16億3,000万円**とのことである。これを**真岡鐵道**に置き換えると、導入のための費用は**約68億円**と試算される。そうしたことから、現時点でDMVを導入することは**難しい**。

**質問** 真岡鐵道の利用者は約7割が高校生達だが、少子化の流れが続いている今日、その部分だけに頼ることは難しい。**沿線住民や観光客などの利用を増やす努力**が必要であると考えます。現在、**関東鐵道がつくばエクスプレス**と連携して**割引券**を販売しているが、そうした取り組みに**真岡鐵道も加わって**はどうか。

**答弁** 現在、関東鐵道の常総線全線と、真岡線の下館から益子までの区間について、土曜、休日、年末年始に1日中乗り降りできる乗車券を販売している。また、**真岡鐵道では、関東鐵道やつくばエクスプレスと、1日フリー切符や周遊切符**の実施について、現在**協議を進めている**。

### 3.福祉分野の諸課題について



**質問** 現在、真岡市の介護保険料は、栃木県内14市の中で**4番目の高さ**であり、その要因としては要介護度の重い市民の割合が高いことが挙げられる。団塊の世代が全て後期高齢者となる『**2025年問題**』を控え、介護保険の持続可能な制度設計は、極めて重要な課題である。介護度が重くなるほど、報酬が増える現行制度の中で、**要介護度の改善状況に応じて独自に奨励金**を出す『**逆介護保険制度**』に取り組む自治体が全国でいくつか見られるが。

**答弁** 介護保険制度は、**要介護度が重いほど介護報酬の単価が高く設定**されており、高齢社会の進展により、今後も費用の増大が予測される。真岡市では高齢者を対象に体操や脳トレを行う**介護予防事業**を実施しているが、**引き続き積極的に**取り組む。また、高齢者の要介護度を改善させた場合、独自に補助金を出し、事業者の意欲とサービス向上を図る『**逆介護保険**』については、すでに実施している自治体の状況などを**調査していきたい**。

**質問** 栃木県が実施した調査によれば、**真岡市内の小学6年生の12.5%、中学2年生の8.2%**が『世話をしている家族がいる』と回答し、**ヤングケアラーの可能性**があるという結果が示された。また、家族の介護のため仕事を辞めざるを得ない**介護離職者**が、**全国で毎年約10万人ずつ増加**している現状も看過できない。今後、ヤングケアラーや介護離職者に対する支援策をどのように考えているのか。

**答弁** ヤングケアラーについては、**学校関係者への研修会**を行い理解促進に努めているほか、小学5・6年生と中学生への**リーフレット配布**や**思春期教室**を通じて周知啓発を図っている。また、**スクールソーシャルワーカー**と**同伴訪問**を行うなど相談に応じている。**介護離職者**については、**地域包括支援センター**が中心となり、仕事と介護の両立に向けて、介護や福祉に関する**相談**に応じている。

### 4.教育分野の諸課題について



**質問** 労働人口が減少し、**人手不足**が叫ばれている一方で、学校教育のニーズが多様化し、**教員の負担は増している**。そうした中であって、学校運営に**地域の協力は不可欠**であり、できるだけ速やかに、市内全ての学校で『**コミュニティ・スクール**』を導入すべきである。**令和8年度までに市内全校で導入**する計画とのだが、**未実施校ではどのような検討**を行ってきたのか。

**答弁** 各学校への意向調査の結果をもとに、**来年度は5校で『コミュニティ・スクール』**を導入する。その他の学校でも、教職員や保護者への説明会、研修などを実施し、**市内全校への導入**に向けて取り組んでいく。基本的には**学校ごとに導入**し、児童・生徒の実態や地域の特性を踏まえた特色ある教育活動の充実、活性化を図ってきたい。

**質問** **令和4年度、不登校**の状態にあった小中学生は全国で**約29万9,000人**。10年連続で増加し、過去最多となっている。そうした中、**適応指導教室などに通えない子ども達への対応**や、フリースクールなどを運営する**民間組織の活用**は今後の課題と言える。また、子ども達だけでなく**保護者へのサポート**も必要だが、真岡市としてはどのように取り組んでいくのか。

**答弁** 適応指導教室などに通えない**子ども達への対応**については、**スクールカウンセラーによる面談**や、**校内に別教室**を用意すること、**オンラインでの授業配信**をしている。また、学校と教育委員会が連携をしながら、民間組織の活用を進めている。**保護者への支援**については、**不登校の相談窓口一覧**をホームページに掲載し、電話や面談で対応しているが、十分に活用されるよう周知に努めていく。

**質問** 少子化に加えて、教員の働き方改革も叫ばれている今日、**部活動の地域移行**は喫緊の課題である。令和4年12月定例議会で質問した際、**教育委員会にプロジェクトチーム**を立ち上げたとのことだったが、その後の進捗状況はどのようになっているのか。また、**佐賀県伊万里市が『甲子園プロジェクト』**というものに取り組んでいたが、真岡市独自に**外部指導者の人材バンク**を構築し、**市内高校への派遣**も考えてはどうか。

**答弁** 栃木県の計画で、**令和7年度末までに全ての公立中学校の休日**の**部活動を1つ以上、地域クラブ**に移行するという目標が示された。また、真岡市教育委員会では、**昨年7月に生徒・保護者・教職員を対象にアンケート**を実施し、**令和6年度**は、市の各種団体と部活動の地域移行に向けた**協議会を設置**する予定である。**外部指導者の人材バンク**の必要性は今後検討するが、**高校への派遣は考えていない**。

**質問** 令和元年に真岡市が実施した調査によれば、将来真岡市に『住み続けたい』『戻ってきて住みたい』と回答した**高校生が30%台**だった。その背景には、地元のことを知る機会が少ないことが大きいように思われる。令和6年度は、真岡市の市制施行70周年であり、海外の友好都市などとの交流にも力を入れていく。**子ども達の郷土教育**という基本的な部分にも**もっと光を当ててほしい**と思うが。

**答弁** 現在、**小学3・4年生の社会科で副読本**『わたしたちの真岡市』を使用し、身近な地域や栃木県について学習しているほか、**中学2年生の『マイ・チャレンジ推進事業』**で、地域の人々と関わる社会体験活動を行うなど、地域のよさを再認識する機会になっている。郷土の文化や歴史を深く知ることは、シビックプライドの醸成につながるため、**若年層**が関心を持ち、**参加したくなるような学びの場の創出や情報発信**に努めていく。

**質問** 戦争経験者の高齢化が進み、戦争の悲惨さを語り継ぐことが次第に難しくなっている。そうした中、8月6日に行われる**広島平和記念式典に中学生を派遣**する自治体が少なくない。昨年9月の時点で**真岡市も『派遣も視野に入れた調査をしていく』**とのことだったが、新年度の予算案に盛り込まれていなかった。**どこまで検討が進んでいるのか。**

**答弁** 平和教育の取り組みは、市内小中学校において様々な場面でやっている。真岡市としては全ての児童・生徒に同じ平和教育を浸透させていきたい。**令和4年度は、中学生を派遣している市町**に対して、計画及び教育的効果について**調査を行った**。今後は、これまで実施している**被爆体験伝承者等派遣事業との教育的効果の比較・検証**を行い、派遣も視野に入れた検討をしていく。

## 再質問



### 『若者会議』と『まちづくりプロジェクト』の連携について

**質問** 『若者会議』と『まちづくりプロジェクト』では世代や目的が違うとのことだが、**縦割りにする必要はない**のではないか。柔軟に横のつながりを持たせることが必要ではないのか。

**答弁** **同じ目的の事業**であれば、協力し合ったり情報を共有したりすることは、**当然必要である**と考えている。

**要望** 先頃、市議会の**総務常任委員会**と『若者会議』のメンバーで意見交換を行った。『若者会議』からは20～40代の幅広い世代が参加したが、異なる世代の交流から学んだ点が多かったという意見が出ていた。世代や目的が違うから一線を画すというのではなく、むしろ『若者会議』で出された**プラン**を『まちづくりプロジェクト』で**実践**するような**相互乗り入れの発想**があってもいいように思う。

### 真岡鐵道の設備更新について

**質問** 『真岡鐵道経営計画』を見ると、令和元年度から3年度までの第3期計画では、設備更新や修繕に総額約2億900万円、そのうち真岡市の負担額は3,170万円だった。令和4年度から6年度の**第4期計画で増額となった理由**は何か。

**答弁** 第3期計画と比べて、第4期計画が増額となっている理由は、**橋梁の修繕**にかかる費用の**2,500万円**、**車両のブレーキ交換**にかかる費用の**約2,500万円**が挙げられる。

### DMVの規制緩和に向けた要望活動について

**質問** DMVを真岡鐵道で導入した場合、**約68億円**の費用がかかるとの答弁であったが、この試算は**規制緩和をしないことを前提**としていると思われる。だからこそ、規制緩和に向けた**要望活動が必要**ではないのか。

**答弁** 費用面に加えて、**定員の問題**もある。**真岡鐵道**の車両は、1両あたり定員が120名である。さらに、**通勤・通学の時間帯**の利用者数は**300名**程度ということで、定員が**30名程度**のDMVを導入させることは**難しい**。

**要望** 今の規制では、**DMV**だけを走らせるしかないが、それが緩和されれば、空いている時間だけDMVを走らせることもできるのではないかと。**運行コスト**が従来の**4分の1**に抑えられるメリットは大きい。また、**バスとの兼用**もできるので、**観光地**のある真岡鐵道沿線では**可能性があるもの**だと思う。もう少し幅広く調査をしていただきたい。

### 真岡鐵道と関東鉄道・つくばエクスプレスとの連携強化について

**質問** 各鉄道会社の取り組みについては分かったが、**真岡鐵道が主体的**に取り組んでいるものは**何かあるのか**。

**答弁** 益子町に観光客が訪れる時期に**臨時便**を走らせたり、**通学者への補助**をしたりするなど、色々努力はしている。また、**SLを絡めたイベント**などもやっている。

### 『逆介護保険制度』について

**要望** 現在の**介護保険制度**のように、**成果が上がるほど報酬が削減**されてしまうのは、働く動機づけにつながっていかないと思う。**介護の担い手確保**の観点からも、働いて成果が上がったものについては、**正当な評価が得られるように**していただきたい。

### ヤングケアラーや介護離職者への支援策について

**質問** 毎年、日本では約10万人ずつ**介護離職者**が増えて続けているが、そもそも**真岡市内にはどのくらいいるものなのか**。

**答弁** 介護離職者については**3年に1度**、介護保険事業の策定をする際に**アンケート**などをとって**把握**している。

**質問** **ヤングケアラーも介護離職者も**、現時点では大枠で把握をしているだけであって、**該当者の捕捉・把握は今後の課題**であると思うが、どのように取り組んでいくのか。

**答弁** **分かりやすく、行きやすい相談窓口**という体制をつくること。さらに**PRI**に努めていきたい。

**要望** **ヤングケアラー**については、**佐野市**では専門の**コーディネーター**を配置している。また、**那須塩原市**では**LINE**を使って気軽に相談できる体制を構築させた。そうした他市の取り組みも参考にしていきたい。また、**介護離職者**については、**長時間労働**を余儀なくされる結果として、**家族を介護している人達**にとって**働きづらい環境**になっている。そうした**働き方改革**を含めた**包括的な取り組み**を考えていただきたい。

### コミュニティ・スクールについて

**質問** 令和6年度に5校がコミュニティ・スクールを導入し、**令和8年度までに全校**に導入することだが、**なぜそこまで時間を要する**のか。

**答弁** 現在、**市内全ての小中学校で地域との連携**に取り組んでいるが、その内容には**差がある**。そのため準備の整った学校から導入していく。

**質問** では、**令和8年度**までには、確実に**市内全ての小中学校**でコミュニティ・スクールを導入できるのか。

**答弁** **令和8年度**までには**導入させたい**。

### 不登校に対する支援策について

**質問** 2月18日に宇都宮市内で**不登校**に関する講演会が行われ、**保護者へのサポートの重要性**が話題になった。他の自治体では、保護者が相談しようとしても非常に待たされ、その間に深刻な状況になるケースがあるというが、**真岡市ではどうなのか**。

**答弁** 不登校に悩む**保護者からの相談**は、児童・生徒の実態を把握しているため、**基本的に教員が受けている**。それでも改善につながらない場合は、**スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー**との面談につなげている。

**質問** 学校教育に対する**ニーズの多様化**と**教員の働き方改革**の両立が求められている中、今回の教育分野に関する質問では学校と**地域・民間団体との連携**が必要なるものをあえて並べてみた。その橋渡し役である**教育委員会の役割は大きい**と思うが、その点はどのように考えているのか。

**答弁** 子どもの教育は、学校、家庭、地域が一体となっていく必要がある。そのため、**外部の様々な団体の協力**は**不可欠**であると考えている。

### 郷土教育について

**質問** 小学3・4年生の副読本『わたしたちの真岡市』を読むと、益子焼や烏山の山あげ祭に関する記載はそれぞれ10ページに及ぶが、**真岡木綿や真岡市内の夏祭り**に関する**記載はほとんどない**。そうした部分も含めて、郷土教育の見直しが必要ではないのか。

**答弁** 副読本『わたしたちの真岡市』は、はじめに**真岡市のことを学んだ後、栃木県内のことについても学ぶこと**になっているので、その点をご理解いただきたい。

**要望** 若者達からは真岡市の歴史について知る機会がないという意見を聞く。『**自国のことを学ばなくなった民族は滅びる**』と言われる。特に、真岡市は今年**市制施行70周年**を迎え、国際交流事業に力を入れていくが、だからこそ自分達の**足元を見つめる機会が必要**ではないか。海外の人達と交流すると、自分の国や郷土のことを知らない時に最も恥ずかしい思いをする。それは、大人達にも同じことが言える。だから、世代を超えて学び合う『**市民大学**』のような**取り組み**も必要であるし、その同じテリトリーに**中学生の広島派遣**もあることを申し添えたい。

# 真岡市 令和6年度 当初予算が決定

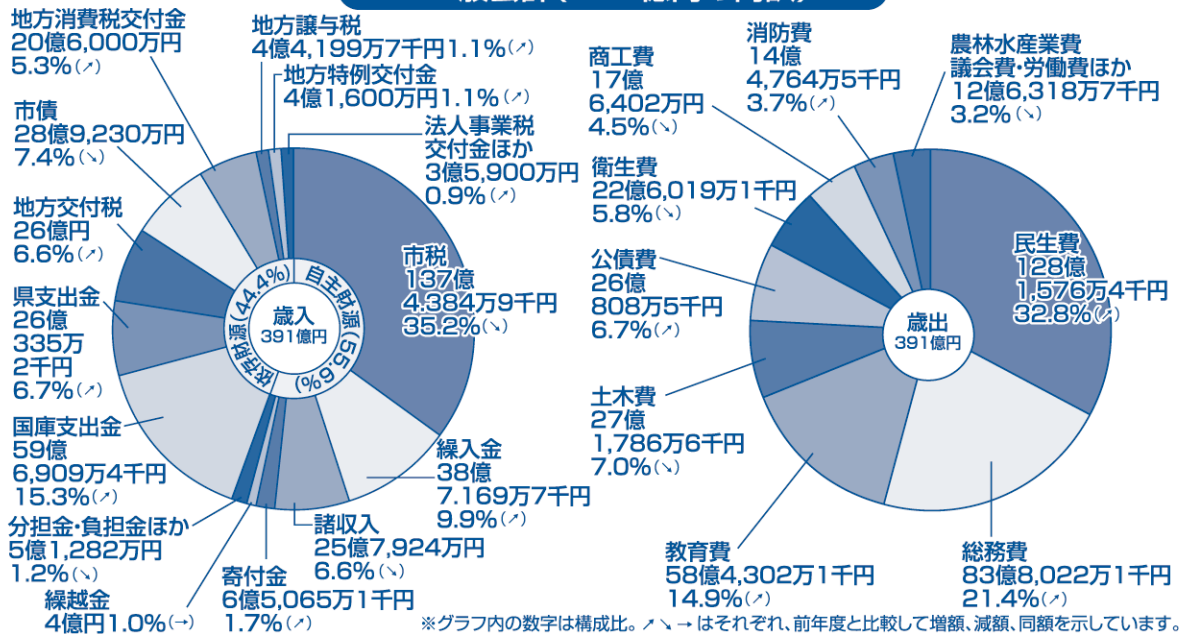
総額は 626億1,365万2千円 (前年比 26億1,296万7千円増)

## 令和6年度 会計別予算額

区分	令和6年度予算額
一般会計	391億 円
特別会計	
国民健康保険	84億6,556万4千円
後期高齢者医療	10億6,642万 円
介護保険(保険事業勘定)	70億4,181万9千円
介護保険(介護サービス事業勘定)	1,761万 円
休日夜間急患診療所	7,812万9千円
産業団地整備事業	8億1,310万 円
計	174億8,264万2千円
水道事業会計	20億8,935万2千円
下水道事業会計	39億4,165万8千円
合計	626億1,365万2千円

**How much?** 真岡市の市債償還予定額 総額 467億3,139万5千円 (前年比 14億9,852万6千円 減)  
(今後、市が返さなくてはならない借金) 一般・特別・水道・下水道・利子含む(令和4年度末現在)

## 一般会計(391億円の内訳)



## 大学生インターン&リバースマンター

2月から3月にかけて、中村は3名の大学生達を、インターン・リバースマンターとして受け入れました。初めて受け入れた2020年夏から教えて今回が7回目。これまでの通算で20名の学生達を受け入れたこととなります。

**インターン**

伊藤 莉緒奈さん  
白鷗大学 経営学部 1年

長尾 若夏さん  
白鷗大学 経営学部 2年

**リバースマンター**

飯田 翔さん  
白鷗大学 経営学部 2年

**市議会の傍聴**

代表質問や一般質問だけではなく、常任委員会での議論の様子も傍聴しました。

**市内での取材&体験活動**

コラボレもかや木綿会館などを視察したほか、それぞれが自分のテーマに沿って取材活動を行いました。

**政策研究**

取材活動で集めた情報を踏まえ、自分の地元に応じたような政策が必要なのか考えました。

**リバースマンターとは?** 台湾政界などにある制度。若者が柔軟な発想で、政治家に政策提言をする仕組み。昨年夏にインターンを経験した学生1名に、今期のインターンの指導や自身の政策研究に取り組んでもらいました。

表記の学年は受け入れ時のもの。

## コラム むあっが

### 地元を知るとのこと

～市制施行70周年のこの年に～

2月定例議会の代表質問で取り上げたテーマの1つに『郷土教育』がある。きっかけとなったのは、昨年夏に受け入れたある大学生インターンとの何気ない会話だった。

その学生によれば、いちごの生産量が日本一であるのに、真岡市を『いちごのまち』だと感じている市民が6割に満たないことに違和感を覚えたというのである。学生が見たデータは、令和4年度に真岡市が実施した『市民意向調査』の結果だった。

では、なぜ真岡市民は、自分達の地元を『いちごのまち』と、それほど認識していないのか? その学生が自分の身に置き換えて考えたところ、真岡市では誰が、いつ頃から栽培を始めたのかについても、日本一を維持するために日々どのような取り組みをしているのかについても聞いた記憶がない。その結果として、愛着や誇りというものに結びついていないのではないかということの問題提起された。

これまで何人もの学生達と接してきたが、振り返ってみると、真岡木綿が江戸時代に隆盛を極めたことも、二宮尊徳翁が農村復興を最初に手がけた場所があることも、親鸞聖人が自ら指揮して建てた全国唯一のお寺があることも、知っている市内在住の学生は非常に少なかったように感じる。

地元に誇るべき歴史や文化があるのに、子ども達や若い世代が知らないのはとても残念であるし、そもそも彼らに伝えるべき立場にあるはずの、私も含めた上の世代は、一体どこまで真岡市のことを知っていると言えるだろうか。

知らないから、教えられない。教わらないから、伝わらない――。

令和元年度の調査結果では、将来『真岡市に住み続けたい』あるいは『戻ってきて住みたい』と回答した高校生の割合が30%台だったが、その原因の一端を見る思いがする。

小学3・4年生が社会科の授業で使う副読本『わたしたちの真岡市』を見てみると、益子焼や那須烏山市の山あげ祭について多くの記載がある一方で、真岡木綿や真岡市内の夏祭りに関する内容はほとんどない。こうした部分も含めて、郷土教育のあり方を今一度見つめ直す必要があるように思えてならない。

今年度、真岡市は市制施行70周年を迎え、海外の姉妹都市・友好都市などとの交流に力を入れようとしている。だからこそ、自分の地元を知るといって基礎・基本の部分にもっと光を当てていくべきではないだろうか。

この課題は、学校教育の中だけで完結すべきものではない。地元のことを知らないのは、私達大人も一緒である。以前、視察で訪れた大阪府和泉市では、商店会が市内を巡るツアーを企画していたが、そうした民間の力なども活用し、世代を超えて学び合える環境づくりが大切であると思う。

『自国のことを学ばなくなった民族は滅びる』と言われるが、それは自治体も同じであると思う。

## 中村がずひの活動日誌

1月	
5日	賀詞交歓会
6日	真岡市消防団出初式
7日	青年式～20歳の集い～ 壬生町立図書館寄席
9日	真岡中学校図書ボランティア
12日	真岡市準倫理法人会モーニングセミナー 広報広聴委員会 真岡地区区長会との懇談会
14日	大谷地区冬まつり 連城院「大人の寺子屋」
15日	あいさつボランティア 真岡新聞音訳作業 〔「ひばりの会」の活動として〕
16日	議会報告会・意見交換会
17日	全国若手市議会議員の会OB会役員会
18日	真岡市準倫理法人会イブニングセミナー
19日	議員協議会
21日	取手市議選の応援(於:茨城県取手市)
22日	あいさつボランティア
23-25日	会派「もおか新時代」視察研修 (兵庫県相生市、岡山県高梁市)
27日	並木町ふれあいサロン交流会
28日	真岡市移住者交流会
29日	あいさつボランティア
30日	つくばみらい市議選の応援 (於:茨城県つくばみらい市)
31日	清溪セミナー実行委員会 全国若手市議会議員の会30周年記念大会実行委員会
2月	
1日	会派代表者会議 とちぎ次世代研究会研修会(於:宇都宮市)
3日	複合交流拠点施設に関するワークショップ
5日	あいさつボランティア 予算内示・臺若会計監査
6日	大学生インターン指導日
7-8日	北方領土返還要求全国大会 全国若手市議会議員の会OB会研修会 (於:東京都)
9日	会派代表者会議/議会運営委員会 議員協議会 大学生インターン指導日
11日	藤沢市長選の応援(於:神奈川県藤沢市)
13日	代表質問の通告書を提出 真岡中学校図書ボランティア
14日	質疑・一般質問調整会議 ※その後、担当課によるヒアリング
15日	大学生インターン指導日 ライブラリー教室作品展
16日	2月定例議会開会
17日	臺若総会
18日	講演会「教育機会確保法と新しい不登校支援」 (於:宇都宮市)
19日	あいさつボランティア
20日	真岡中学校図書ボランティア
26日	質疑・一般質問1日目 ※この日、3人目として登壇
27日	質疑・一般質問2日目
29日	民生文教常任委員会を傍聴
3月	
1日	民生文教常任委員会を傍聴
3日	子どもワカモノフェスタ2024 (於:宇都宮市)
4日	あいさつボランティア 産業建設常任委員会を傍聴
5日	決算審査特別委員会通告書を提出 産業建設常任委員会を傍聴 真岡中学校図書ボランティア
6日	総務常任委員会
7日	会派代表者会議 総務常任委員会
8日	予算審査特別委員会に関するヒアリング
9日	熊倉4区会計監査
11日	あいさつボランティア
12日	予算審査特別委員会/議会運営委員会 大学生インターン指導日
14日	議員協議会/2月定例議会閉会 広報広聴委員会
17日	にのみやニッチ「まちの参観日」
18日	あいさつボランティア 会派代表者会議
21日	大学生インターン指導日
22日	総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合 戦略推進市民会議
23日	ハロハロラボ「久下田駅びらき」
24日	熊倉4区総会
26日	大学生インターン指導日
27日	伊夜日子会会計監査